

D:地域資源の再生・創出活動

日時：平成22年9月17日（金） 18:30～ タワーホール船堀402会議室
 日時：平成22年9月30日（木） 18:30～ タワーホール船堀応接会議室
 日時：平成22年10月12日（火） 18:30～ タワーホール船堀302会議室

1. 「徒歩の駅ネットワーク構想」について

Dグループは、徒歩の駅ネットワーク構想の地図をつくることとする。

2. 徒歩の駅ネットワークの考え方について

自転車（特にスポーツを目的としたサイクリング）は、歩行者との共存は難しいため、今回は「徒歩」に絞って検討を進める。隣接区との歴史的なつながりや関係を考慮に入れてネットワークを考えたい。（街道や小河川）

歩くルートは、大通りではなく、裏道などで設定した方がおもしろい。歩くルート沿いに江戸川区産の提灯、風鈴や朝顔などを並べ、季節感を出すと思う。また、一步入った路地的な空間に気軽に立ち寄れる店などがあるとワクワク感がでておもしろい。

歩く道は、歴史のポイントなどの地域の資源をめぐりながら、昔の面影をたどるイメージがいいと思う。

3. 徒歩の駅について

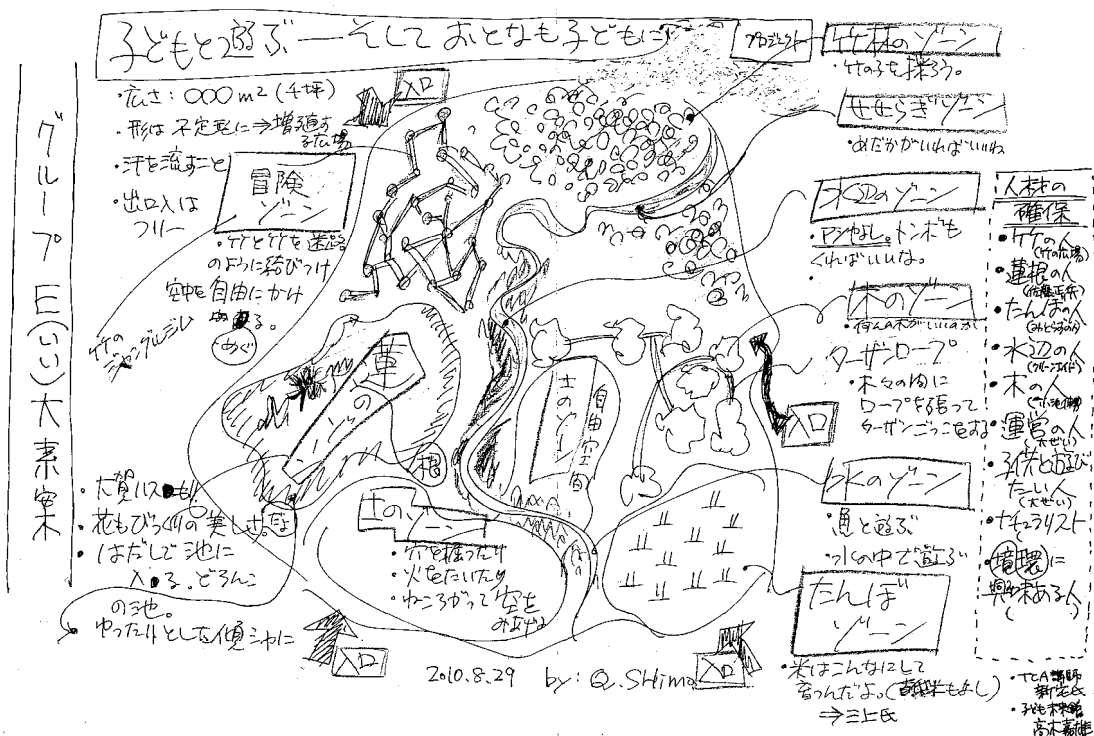
徒歩の駅には、休憩施設やトイレなどの施設を設置する。その他の施設は、それぞれのネットワークや配置状況に応じたものを検討する。

飲み物や軽食などの売店や自動販売機などがあるといいかもしれない。場所によっては、野菜の販売所などがあってもいいと思う。例えば小松菜の直売やB級グルメなどがあると人が集まると思う。



E:子どもと遊ぶ - そしておとなも子どもにプロジェクト

第2回景観まちづくりワークショップで、Dグループは「徒歩の駅 ネットワーク構想」と「子どもと遊ぶ そしておとなも子どもに プロジェクト」の考え方がまとめられ、「子どもと遊ぶ そしておとなも子どもに プロジェクト」は、新たに「Eグループ」として活動を始めています。



【問合せ】都市開発部都市計画課調整係（第三庁舎1階） 5662-6368

江戸川区景観まちづくり ワークショップニュース 第2号

発行：平成22年10月 8日

第2回景観まちづくりワークショップ（8月28日開催）では、各グループに分かれて具体的なプランについての意見交換、発表を行いました。その後、各グループで行った活動についてご報告します。

A:水辺の景観まちづくり活動

日時：平成22年9月30日（木）19:00～ 21:00 勤労福祉会館 集会室第2

Aグループでは、これまでの意見交換で出された活動プランの具体策および新しい活動プランについて、イラストや写真等を使用した説明資料を用意していただき、各自発表を行っていただきました。

活動プラン1：中川左岸防潮堤テラス環境への取組み

活動概要

中川左岸においてゴミ拾い活動や草花(花壇等)を植える。

「もったいない」を大テーマに十分に活用されていない中川左岸防潮堤テラスの植栽スペースを有効に活用するとともに清掃活動を通して潤いのある水辺環境をつくりあげる。

これからの取り組み方針

中川左岸防潮堤テラスの植栽スペースを確保（河川占用許可取得）し、住民と行政の連帯体制で花壇整備を行う。

住民には、周辺地域を中心にボランティア募集の呼びかけを行う。

活動プラン2：江戸川区内での河川護岸の美観向上を目指して

川岸の景観の対比



活動概要

護岸の景観をよくするために、今後の護岸補修工事に対して美観向上の呼びかけを行う。

これからの取り組み方針

今後補修工事が行われる篠崎水門改修の計画にあわせて、景観をよくする護岸整備の提案および方針を検討する。

活動プラン3：妙見島を中心とした旧江戸川水辺のまちづくり拠点の提案

活動概要

新川～妙見島～浦安の旧定期航路に観光用蒸気船を復活させ、以前の特徴ある地域を復興させる。

これからの取り組み方針

他区と共同して、旧定期航路に蒸気船（通運丸）を観光船として復活させる。歴史ある妙見島付近に一つの景観をつくり街を活性化させる。

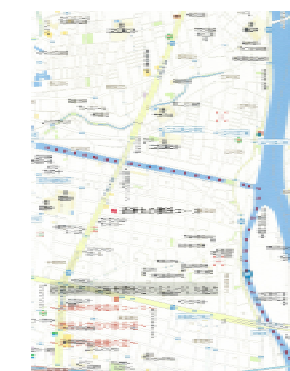
活動プラン4：護岸において川をバックに演奏会

活動概要

ロックゲート付近で演奏会を開催し、楽しいことをしながらそこで仲間を増やし、人の集まる景観をつくる。

これからの取り組み方針

小中学校の吹奏楽部等に声をかけ出演の依頼を行う。



B: 緑豊かなまちづくり活動

日時：平成22年9月22日(水) 10:00～11:30 タワーホール船堀405会議室

今回は、これまで議論されてきた「美の価値の共有」などの大きな目標像のもとに、活動プランの「種」と「芽」の中から絞り込みを行い、具体的な活動内容について話し合いを行いました。その結果、以下の3つの活動プランについて今後まとめていくこととなりました。

【活動プラン - 1 - 1 : アジサイ街道・百花園づくり】

< 活動の概要 >

緑道内の空いているスペースに、アジサイなどの花を植えて1年を通して花が咲くようにしていく

< パネル作成に向けて >

現在の写真と完成後のイメージ写真を並べてはると分かりやすい

作業の流れを書くと分かりやすいのでは(写真付き)

作業をしている期間は、「お知らせ看板」があるとイタズラ防止に役立つ

【活動プラン - 1 - 2 : 仲間を増やしていこう! (仮)】

< 活動の概要 >

活動プラン1-1を広げていくために、色々なきっかけづくりを行っていきましょう!

< 対象者候補 >

学校(保育園)や小さなお子さんとお母さん

< 挿し木・鉢のプレゼント作戦 >

育てた挿し木を緑道などに植えるだけでなく、他の人達にプレゼントしていく

そのときにいろいろな情報提供を行ったり、後で携帯電話で写真を撮ったりしたものをホームページにアップしてもらうなど、仕掛けを同時に行う。

木の元気がなくなったときに、すぐに専門家に助けてもらえる体制があれば早い対応ができるし、自分もお手入れのポイントを学ぶことができる

プレゼントするとしても木によって適した時期があるので、年間スケジュールを作った方がよい

< 挿し木体験 >

小さな子どもやお母さんに挿し木体験をしてもらう。子どもは自分で体験すれば、木の育て方や面白さを喜ぶ

【活動プラン - 2 : まちの情報を共有しよう(緑・人材を「知る」)】

< 活動の概要 >

緑を育てている人がこの地域にいる、この地域の に立派な緑がある、というような地域の情報を「知る」きっかけづくり

地域でがんばっている人を広報する、表彰するなどにより、その活動をより広める。その活動をしている人をみんなで認める

< 情報ベース >

区内を網羅的に扱える情報を持っているのは事業団・区となるため、情報のベースはそれらになる。

それらのベースに地域の情報をどのように反映させていくのか

事業団の情報は、公園・街路樹などにエリア分けされているため、まち全体を扱うようなものにはなっていない

特定の誰かに向けて情報を発信するのか、広く一般に向けて発信するのか

活動プラン-2については、より具体的な仕組みのアイデアについて今後も議論していくことになりました

C: 歴史の発掘・保全活動

日時：平成22年9月19日(日) 13:00～16:30 「河原道」まち歩き～鹿骨区民館

今回は、「河原道」を歩いてその魅力を確認した後、その「河原道」を守っていくためにどんなことをしていけば良いかを検討しました。当日は、江戸川区学芸員の樋口さんに同行いただき、まちの歴史を教わりながら「まちあるき」と「意見交換」を行うことができ、非常に充実した会となりました。

今後は、「河原道の魅力」「河原道が目指すべき姿」「河原道を守るための活動」という3つの視点から活動プランの内容をまとめていく予定です。

【河原道の魅力】

< 来訪者の視点 > 「道自体が面白い」

道が曲がりくねっていて趣がある / 先が見えないワクワク感

工業・商業・農業が混ざり合う景観 / シーンが移り変わる

信号がない

< 歴史的な意義 >

江戸時代からの道が残っていること自体が奇跡のようなもの

成田山詣の通行路であった



皆で現地を歩いてみて、「河原道」の魅力を再認識しましたが、「ただの古い道、生活の道を残すのは難しい(理解を得づらい)」という意見を踏まえて、次回までに成田山詣の歴史(どんな人が通ったのか、どの位の人通りがあったのか など)をもう少し掘り下げてみることになりました。

【河原道を守るための活動】

< 「河原道」の魅力を伝える方法 >

シンポジウムでの発表を周知の機会と捉える / 協力者を得る、詳しい方を紹介してもらう など

説明会などを開催する / 小中学生に郷土史を教える

< 「河原道」の魅力を伝える工夫 >

沿道に伝わる逸話を発掘する

すてきなネーミング(例えば「江戸川口マンチック街道」など)を考える

まちあるきツアーや時代祭を企画して、活性化に効果があることを示す

【河原道が目指すべき姿】

< 「河原道」を歩いてもらうためのアイデア >

分岐点に案内板等を設置する / 道標をきれいにする

道の由来や歴史を示すもの、地図などを設置する / ガイドや語り部さんなどがいると良い

道に線を引いたり、ルートに沿ってタイルを埋める / 石畳を用いて当時の道幅を再現する

夜間には街灯がもっと必要

< 「河原道」を歩いてもらうためのアイデア >

商店街と連携してスタンプラリーを実施する

既存のお店などを利用した休憩所を開設する

< 「河原道」を歩いてもらうためのアイデア >

杉板などを使ってブロック塀の修景を行う “自然の道しるべ” ができる

「河原道」の魅力を伝えて、沿道の景観を守るルールをつくる